

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 224号

平成22年8月27日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

○病害虫の発生を抑えて、目指せ豊作！○

～水稲病害虫発生状況一斉調査を実施しました～

8月3日に岩手北部地域病害虫防除連絡協議会が、水稲のいもち病と斑点米カメムシ類の管内一斉発生状況調査を行いました。この調査は、水稲の作柄安定と品質向上をねらいに、協議会を構成する関係機関が連携して一昨年から実施しているものです。

当日は各市町村、JA、NOSA I、普及センターの職員、計13名が3班に分かれ、それぞれ久慈地区、洋野地区、宇部・野田・普代地区の水田を調査しました。

その結果、葉いもちが発生している圃場も確認されましたが、大きな被害となっているところは少なく、広域的な多発には至っていませんでした。また、斑点米カメムシ類の発生量は少なめでしたが、今後カメムシ類の加害時期を迎えるため、基本防除の徹底を呼びかけることとしました。

今年は天候に恵まれ、ここまで水稲は順調に生育しています。現在の地域内の病害虫発生状況に基づいた防除指導を行うことで、農家の防除意識を高め、収量・品質ともに満足できる収穫が得られるよう、関係機関が連携して農家を支援していきます。



いもち病、斑点米カメムシ類の発生状況を調査しました

○県北圏域の産直の活性化を目指して○

二戸・久慈地域の36の産直施設を対象にして、売上向上や商品開発の戦略を学び、顧客拡大を図るねらいで、7月23日に「誘客力強化セミナー」を行い、約70人が参加しました。

これは、県北広域振興局が今年度取り組む「県北圏域産地直売パワーアップ推進事業」の一環として実施したものです。この事業では、各産直と関係機関が連携して産直の活性化に向けた取組みの検討会を開催し、産直の誘客力強化の総合的助言指導をするトータルアドバイザーを設置して、個別産直のビジョン作成に対するアドバイス活動を行います。

今回のセミナーでは、産直の施設から組織体制までの運営状況のチェック事項から、今後の地域戦略構想の必要性までトータルアドバイザーの高木響正きょうせい氏から講演がありました。参加者は大変興味を持ち、自分の産直を振り返りながら聞いていました。

今後は、8月中に指導する産直を選定し、9月から個別産直のビジョンづくり指導が始まります。そして、12月にはその報告会を開催します。

このように、県北圏域の産直は活性化に向けて動き出しました。



産直のトータルアドバイザーの高木響正氏から講演

○消費者に求められる産直を目指して○

8月3日、久慈地域の産直の代表者と消費者との意見交換会が洋野町グリーンヒルおおので開催されました。この意見交換会は、産直の運営状況等について、消費者と産直が率直に意見交換するために開催したものです。

参加した産直の代表者と消費者は「夕方まで商品を切らさないための対策」や「消費者が利用しやすいレシピの添付」などについて、相互に活発な意見交換を行いました。意見交換会を通じて、消費者からは「産直の人達の熱意、細かな気配りが感じられ、ますます産直が好きになった」「産直の方々の苦勞が分かった」との感想がありました。また、産直からは「自分は当たり前だと思っている野菜の食べ方が、消費者が分からないことに驚いた」「今後はレシピ等を付ける等、消費者の要望に応えたい」と感想がありました。

久慈地域の産直は今後も「消費者に求められる産直」を目指して、消費者の生の声を聞き、自らの経営改善に活かすこととしております。



産直へ率直な意見を述べる消費者

○ 技術情報 ○

◇◆ ほうれんそう ◆◇

夏秋期の栽培技術ポイント

- かん水、土壌消毒、品種、遮光・卵殻エースなどの実行可能な高温対策を再点検。
- 塩類濃度障害や酸性障害に加えて、窒素不足ハウスも。普及センターで分析可能。
- 9月は最も降水量の多い時期。ハウス周りの溝掘り等の排水対策を今から準備。

1か月予報では9月初めまで高温で経過するとの情報が出されています。ほうれんそうにも生産者にも厳しい状況が続く可能性が高いようです。体調に気をつけながら、今後の栽培技術のポイントを再確認しましょう。

□高温の本年でも安定収量を上げている生産者の技術的な共通ポイント

- ① サブソイラー等深耕と組み合わせた、播種前のたっぷりとしたかん水や適切な生育途中のかん水。
- ② 土壌消毒実施や完熟堆肥施用など、病害が出にくい条件整備を実施。
- ③ 病害や高温に強い品種の選定や、遮光資材、卵殻エースなどの資材の効果的な利用。

□排水の良いほ場で多量にかん水を実施したハウスは窒素不足の可能性大

今年は例年に比較して高温に経過しているため、かん水量が非常に多くなっています。そのため、例年と同じように施肥していても、本年については窒素が流れてしまって不足するハウスが多い状況です。窒素が不足すると、かん水が十分でも生育が止まりますので、次の対策を検討しましょう。

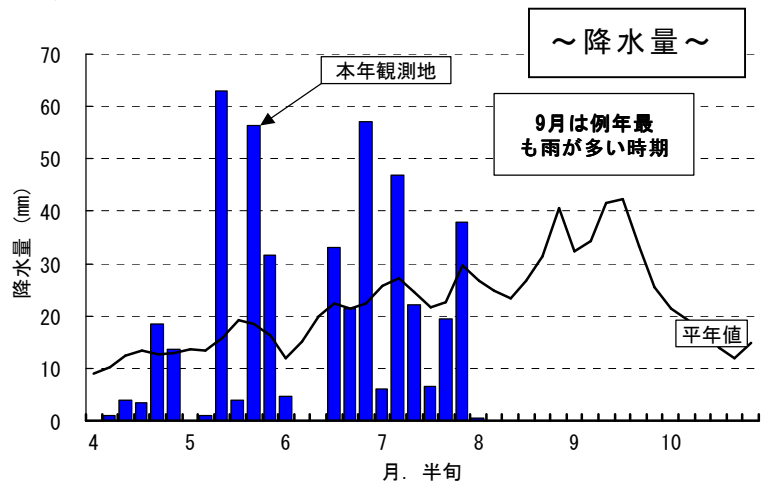
【**基肥を増やす**】 ぼかし肥料を減肥せず施用する。あるいは尿素を0.5~1.0kg/a位上乗せ施用する。

【**追肥を実施**】 本葉4枚目時頃に、尿素を0.5~1.0kg/a位追肥してかん水を実施する。

*心配な方はすぐに農業改良普及センターへ土壤をお持ちください。

□**降雨量が増える秋に向け、いまからハウス周りの溝掘り等の再点検**

右グラフの通り、9月は例年最も雨が
多い時期となります。また、以前と比較して、強い雨の降る確率が高まっています。ハウス周りの溝掘りや、ハウス内のサブソイラー・プラソイラー等の可能な排水対策を実施しましょう。



◇◆ **水稲** ◆◇

- ☆ 10日ほど登熟が早まっています。穂の色をよく観察して、適期に刈取りましょう！（刈り遅れによる品質低下に気をつけましょう）
- ☆ 適期に速やかに収穫が行えるよう、事前に収穫機械、乾燥機等を点検・整備や、圃場の排水対策を実施しましょう。

1 出穂状況（管内平均）：始期 7/29、盛期 8/3、終期 8/8
6月以降高温で経過しているため、1週間程度早く出穂期を迎えました。

2 収穫適期
出穂期以降も高温で経過しているため、収穫適期も平年より10日前後早まる見込みです。
収穫適期は、黄化籾割合が80~90%が目安です。適期を逃さないよう、登熟状況をよく観察しましょう。

◇◆ **秋の農作業安全月間が始まります** ◆◇

『**農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一**』

をスローガンに、春に続いて9月15日~11月15日までの2ヶ月間、秋の農作業安全月間が始まります。

幸いにして、今年度は現時点で久慈地域では死亡につながる農作業事故は発生していませんが、県内では10件の農作業死亡事故が発生しており、昨年度発生総件数に比べ既に3件超過しています。原因の多くは**トラクターや耕耘機の横転、転落により下敷き**となり死亡するケースです。

これからは秋の繁忙期に入りますが、9月に入ってもしばらくの間は暑さが続く見込みです。暑さによる疲れがたまり思いがけない農作業事故につながる場合もありますし、秋は日没が早まることで、忙しさから気持ちに焦りが生じ農作業事故の危険性が高くなる時期です。

慣れた機械操作でも点検をしながら行い、機械の横転や転落など発生しないよう慎重に作業するとともに、**トラクターには必ず安全フレームを装着し、シートベルトをしましょう。また一人での作業は避け、家族には作業場所と帰宅時間を知らせましょう。**

大切な家族のために、自分の安全を確保して、この秋も作業を頑張りましょう！